

＜第3回 竜神地域会議 会議録＞

日時 令和5年6月27日（火） 19:00～20:30
場所 竜神交流館 多目的ホール
出席者 委員 18名
市役所 太田市長、後藤部長、中川室長、奥村室長、中尾課長
事務局 成瀬支所長、吉澤副支所長、天野担当長、山本主査、
山口書記
オブザーバー 岩田館長、杉本市議

1 会長あいさつ〈省略〉

2 提言書の授受〈省略〉

3 市長あいさつ〈省略〉

4 提言内容説明

- ・パワーポイントの資料を用いて、提言内容を副会長より説明

5 市長との意見交換

市長より質問

- ▶交通事故件数ワースト1というのは、実際に何件ぐらいの事故が起きているのか、どういった事故が多いのか。

→提言書に交通事故マップを添付しており、どのような場所で事故が起こっているかはそれで確認ができる旨説明。

市長より豊田市の交通安全に関する取組に関して説明

- ▶足助地区では、地元の住民が交通ルールを徹底的に守り、他地区から来た人たちの模範となるように努めるモデルカー活動をして成果を上げている。
 - ▶歩行者保護モデルカー活動、とまってくれてありがとう運動について説明。
 - ・歩行者保護モデルカー活動→ドライバー側へのアプローチ
 - ・とまってくれてありがとう運動→歩行者側へのアプローチ
- 止まってくれた車に対して、ありがとうの気持ちを伝えることが大切。登下校時に地域の方たちが見守りをしてきているが、その際に止まってくれたドライバーを見て、アイコンタクトでありがとうの気持ちを伝えることも子供たちに教えてほしい。それを習慣づければ、子どもたちが1人で出かける時にもドライバーを見て、アイコンタクトで自己防衛をしていけるのではないかと。

委員より質問

- ▶今の内容を市から学校に伝えて、朝の会などで先生から子供たちに伝えてもらうことはできないか。自分も見守り活動をしており、やはり先生の言葉が子供たちには効果がある。登下校時の現場では、自分たちが伝えていく。

市長より回答

- ▶学校に伝える。

委員より質問

▶今の子どもたちは学校では挨拶をするが、校外へ出ると挨拶をしない。どうやったら校外でも挨拶やありがとうと言えるかが大事だと思うが、どう思うか。

市長より回答

▶今の社会では、地域社会が子どもたちと関わることをあきらめてしまっている。大人があきらめずに声掛けをするかどうかが大事。昭和の時代は、家庭で教育し、学校で学び、地域で育てるといふ言い方をしていたが、平成ぐらいになってから聞かなくなった。現在、部活の地域移行の話が進んでいる。例えば、地域会議の子ども版を作って、子どもたちにも一緒に地域のことについて考えてもらい、地域の受け皿になってもらう。その過程で子どもたちとの接点を増やしていくことはできないか。その中で校外での挨拶やお礼ができるようになっていかないかと考えている。

委員より質問

▶交通事故に関して、事故マップを見ると、事故が多い場所は決まっている。そういった場所に、行政として効果的な対策をしてほしい。また、警察と連携し、警察に交通事故情報や他地区の交通安全に対する取組を横展開してほしい。

市長より回答

▶他地区の取組は横展開するようにする。事故の多い土橋の交差点はこれ以上ハード面では難しいと思うので、取り締まりを強化するしかないのではないかと考えている。

委員より意見

▶学校では、知らない人に声をかけられてもついていかないと教えられているが、毎日顔を見て挨拶をすることで、声を掛け合える地域づくりを目指していきたい。

市長よりラリー（WRC）に関する説明

- ▶豊田市が主催者となり、WRCを開催する意味を説明
- ・会場となる山間部の山の価値を再確認する
- ・交通安全推進
- ・産業振興

委員より意見

- ▶子どもたちの歩くところ（通学路）だけでもいいので、横断歩道や歩行者用の線が消えているところをしっかりと整備してほしい。
- ▶各区長さんがそういった工事申請をしてくれているが、進捗状況がわからないということなので、進捗状況などをしっかりと伝えてほしい。

市長より回答

▶工事申請で受付、順にやっていくと時間がかかるので、市内で一気に進めていくようなことも考えていく必要があるかもしれない。

6 報告事項

(1) 竜神地域会議の予定

- ・事務局より竜神ふれあいまつりの出展日を11月3日に変更した旨を説明

(2) 第2回竜神地域会議 会議録について〈省略〉

(3) 令和5年度防災事業について

- ・事務局より防災啓発ポスターの作成を竜神中学校文芸部に依頼した旨を報告
- ・事務局より第1回防災啓発チラシを7月に各自治区へ回覧する旨を報告